

人物画に感情込めて



大学生・岸野織子が初個展 高知市

高知市出身で武蔵野芸術大学3年の岸野織子(21)の個展が同市本町1丁目のファウストギャラリィで開かれてい

る。アクリル、クレヨンなどを用いた絵画や1993年生まれ。土佐塾高校卒業後、同

しい目が全体の印象を形作り、真面目でおっとりとした男性の雰囲気

が伝わる。

大学でデザインなどを学ぶ。今回が初個展。東京都小平市在住。デザインと並行して

「珊瑚」は、紙粘土やティッシュペーパー、米やパンも素材として使ったミクストメディア。真っ白な背景を生かし、物体が宙に浮くようにも見せた。

絵画制作に励む岸野は、大学の春休みを利用して故郷での絵画発表を企画した。会場には高校時代の作品や大学の課題から着想した作品も展示している。

自身を含めた身近な人物を題材にするという岸野。思ったことをすぐに描写できるように、紙や板などに直接デッサンする。「どんな塗り重ねて作品が出るか」を確かめる過程も楽しむ。人物画は特に自分の感情を入れ込んで描く」と創作について話した。

「タフロー(平面作品)をやり続けたい」と語る岸野織子(高知市のファウストギャラリィ)で完成させる予定。

(西森征司)